

研究主題

生きて働く確かな力をつける学びの創造

すべての児童が「わかる」「できる」「たのしい」をめざした授業改善

研究の具体

本校におけるユニバーサルデザインの捉え方

わかる

「わかる」とは、基礎的・基本的な知識や技能を習得することにより、様々な情報を整理・理解すること。

できる

「できる」とは、新しい課題に出合ったときに、学習して身に付けた知識や技能を活用して解決していくこと。

楽しい

「楽しい」とは、知的好奇心が揺さぶられる学習課題、教材、学習方法等により、学ぶ意欲の高まりにつながること。

ユニバーサルデザインの考え方を
取り入れた授業づくり

【焦点化】

ねらいや活動を絞り込み、児童につけたい力の具体化、発問・助言の精選、展開や内容を単純化し、目的意識を明確にすること。

【視覚化】

視覚的な手がかり（言葉・写真・図・動作等）を効果的に取り入れ、学習内容や考えなどを可視化すること。

【共有化】

個々の学びを全体に広げ、集団で思考を共有する。その際に話し合い活動（形態、再話、解釈等）を組織化し、異なる考えを認め合うこと。

視点1

一人ひとりの学びの違いに対応した授業づくり

焦点化



なぜ、おいで米の作付面積があまりふえないのだろう。

「おいで米」の作付面積の割合を少しずつ提示することで問いを生み出す。 → 児童から出た問いを焦点化 → 学習課題へとつなぐ。

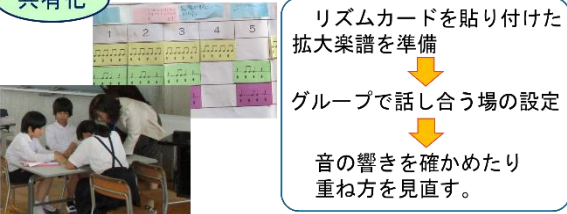
視覚化



色分けした位取り板を提示して、数の構成を捉えさせる。（4年）

色分けした位取りシートを活用し、数の構成を捉えさせる。（3年）

共有化



リズムカードを貼り付けた拡大楽譜を準備
↓
グループで話し合う場の設定
↓
音の響きを確認めたり重ね方を見直す。

視点2

個の違いを互いに認め合い、尊重し合える集団づくり



自尊感情の高まり

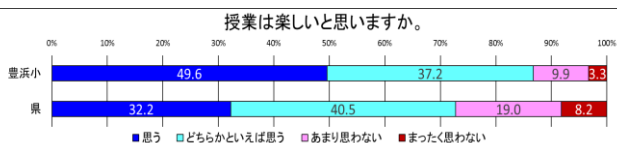
視点3

一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導と支援

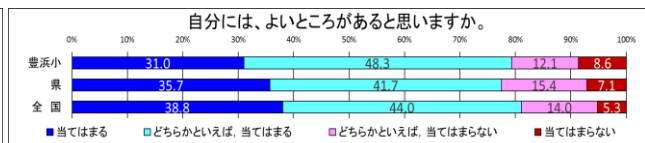


研究の検証及び改善の手立て

各種学習状況調査の結果によると、左下のグラフのように「授業が楽しい」と答える児童が多く、また「安心して自分の意見を言うことができる」と感じている児童も多い。しかし、自尊感情においては、まだまだ課題があると感じる。今後はさらに校内体制の整備と個のかかわりを重視したい。



平成30年度学習状況調査（県）※学校全体



全国学力・学習状況調査（国）※6年